

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101802		
法人名	株式会社 サポート		
事業所名	サポートピア葉山(ほのか)		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町高田郷2179-1		
自己評価作成日	平成29年10月24日	評価結果確定日	平成30年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4271101802&SVC=0001096&BJN=00&OC=01
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「入居者様第一主義を方針とし、転倒・服薬等事故や虐待・拘束等防止に、特に力を入れ日頃の支援・援助を行っている。また、どういう状況の方でも受入れ、最後まで生活して頂くよう「ノウ・ギブアップ」の精神で、職員・家族・医療機関や主治医と連携・協力し、頑張っている。環境的にも交通の便も良く、日当たりがよく庭も広く静かで、施設内も明るく広々とした空間で、清潔(尿臭・便臭等がない。)で生活環境が非常に良い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の基本方針の1つにある『利用者第一主義』の文言に基づき、ホームは新体制となつてから原点回帰を図っている。この基本方針の基、職員がお互いに協力しようという体制を着々と築いている。この原動力となっている施設長は、職員とのコミュニケーションを大切にしており、入居者支援の相談や運営面の相談等傾聴する姿勢を貫いている。また、フットワークが軽く、相談等しても早い段階でフィードバックがあるため、職員は安心して入居者支援ができています。このような下地作りが功を奏して、職員間の風通しが良い風土が構築されて、職員は楽しく仕事をできるようになった。このような環境下で生活を営んでいる入居者は、自然と笑顔や笑い声が絶えない。最後に物的環境面において、ホーム内は清潔でありモダンな雰囲気、落ち着いた空間作りができていて、自然と入居者の居場所ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 サポートピア葉山(ほのか)	基本理念、方針を掲示し、各ユニットで意思統一を図っている。	株式会社サポートの基本理念に基づいて、グループホームサポートピア葉山の基本方針を定めている。利用者と地域に愛される施設づくりを掲げており、施設長がユニット会議に参加した際等を活用して、職員に理念や基本方針の周知を図っている。施設長は職員が笑い、入居者も笑い、お互いが癒される施設づくりに尽力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など積極的に地域に出かけている。近隣の方々からも声をかけていただく機会が増えている	施設長が変わってまだ日が経たないが、今まで地域と関わることのできなかった点を改善して、まずは定期的に自治会長へ挨拶に向いている。今から改めて地域との関係作りを構築していくということであった。今後は、自治会から求められることは積極的に行い、逆にホームの行事等には、地域住民が足を運びやすい環境を作っていく方針であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JNO=4271101802&SVC=0001096&BJN=00&OC=01	認知症の理解支援の方法を地域の人々に知っていただく機会は現段階では設けていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に一度開催し、家族・自治会長・長与町役場など参加していただき、質疑応答を設け意見交換を行いサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回の頻度で開催されていることを議事録より確認した。内容はホームの運営状況の報告や、行事等活動を報告する案件が多くあった。これらに加えて、今まで家族に一任してきた入居者の緊急時の対応や受診について、今までのやり方を一掃して、可能な限り職員が対応するようにホーム側から家族等に進言した。この例のように、要望が出る前に入居者や家族の意向等を予見して、可能な限り実現に繋げているとのことであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場へ訪問した際や運営推進会議、役場に質疑があり電話をかける際に相談などし協力関係を築いている。	施設長が変わった時期は、特に顔を覚えてもらうためにも、ほぼ毎日保険者に連絡を取ったり出向いたりしていた。また同時にホームの適正な運営ができているか、役場に尋ねながら自主的に点検を続けていたとのことであった。その他の関わりとして、ホームの空き状況の連絡を役場にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊される入居者が数名おられるが、玄関の施錠は行わずチャイム音で入居者の安全に努めている。	身体拘束をしないケアの取組みとして、まず教育の在り方に力を注いでいることを確認することができた。新しい職員の入職時には施設長が指導を行っている。また現任の職員に対しては計画的に研修を実施して、意識が薄まることのないように説明を持続的に行っている。最後に入居者への不適切な関わり方と思われるようなケースがあった場合は、ホーム長の指導後、必要に応じて施設長が職員の話聴くようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束委員会を設置し、月に1度会議を行いユニット会議などで報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、制度利用の必要な方はおられないが、研修会があれば職員に参加してもらい理解と活用をできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に重要事項説明書や契約書の説明に時間をかけて納得した上で、サービスの提供ができるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者のご家族が意見要望を出しやすいように玄関先へ意見書を設置、またケアプラン変更時にもご家族から聞き取りをし、それを入居者のケアに反映させている。	入居者は普段の関わりの中から、また家族は面会時にアプローチすることが最も多くなっているようである。またケアプランの更新時期も密に話ができるとあって、大切な機会の1つと位置付けている。但し、意見箱には意見等入ることはなく、特にアンケート等も実施していない状況である。今後、ホームとしては表に出しにくい意見を引き出す工夫が必要であるとの認識を抱いている。	利用者や家族等が意見を表出する機会の1つとしてアンケートの実施を期待したい。またアンケートの設問の内容については職員の資質向上の目的も含めて検討していくことが望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議において、意見提案を出し合い反映させている。急を要する場合はその都度話し合いの場を設けている。	施設長が変わって一番力を注いでいることは、職員が意見を出しやすい雰囲気を作ることと、とにかく話を聴くことであった。ユニット会議でそれぞれ職員の話聴く機会はあるが、それとは別に個人面談を定期的実施している。マンツーマンでの話の方が、より一層職員の想いや考え方を知る機会になっているとのことであった。今後、職員との信頼関係をより強固なものにして、ホームの基本方針に向かったケアができるように、職員一丸となって取り組んでいきたいとのことであった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	自己評価表を記入し提出することになっている。社内外での研修会、地域研修会への出席。本人の課題努力を把握し、個々の目標設定に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる共通の知識や技術については、人員確保が出来る時間帯に積極的に機会を作るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、親交を図っているが同業者の交流機会が少なく、相互訪問等の活動がなかなか図れない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて本人の要望を聞き、出来るだけ応えるよう努めている。入居時は1対1にて対応し、ホームでの生活、他の入居者様と早く溶け込めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にも入居時にお話を伺い、出来るだけ多くの情報を頂き、ご家族様にも安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人とご家族様にお話を伺った上で会議を開き、ケアプランを作成し、ケアプランにそって支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様個人の性格もあるので、出来ることは自分達でしていただきながら、難しいことは職員が間に入りながら、入居者様が中心となった生活空間であるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は中立的な立場で接するよう努めている。ご家族と入居者様の関係はさまざまですが、お互いの存在がかけがえのないものであることを理解していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様にも協力をいただきながら、今まで縁があった方々とのお付き合いが途切れないよう努めている。	まず取り組んでいることは、入居者にとって一番身近な家族が面会しやすい環境を作るという視点であった。その延長に身近な親戚や近所の方、職場の人等々広がりを見せていくという、いわば入居者を中心に人の輪ができていくようなイメージを持っている。今のところホームとしてはできることを、丁寧にやっている印象であったが、今後は計画的に又個別支援をすることで、馴染みの関係構築に厚みを持たせていきたい考えであった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格もあるので難しい面もありますが出来る範囲で入居者様を中心に職員が間に入りながら、入居者様同士の関わり合いを深めるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様の退去後もご家族様に協力をいただきながら途切れないよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人の希望にそって出来る範囲での支援に努めている。	入居時には家族からの聞き取りを行う。申し送りノートやアセスメント等を活用し、日常生活から本人らしさを把握し支援につなげている。無理な支援はせず本人のペースを尊重して対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境などは入居前での面接で話を聞いた後会議を開き、職員全員が統一したケアをするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の体調を把握し無理のない生活をしていただけるよう努め、また本人の残存機能を活かすお手伝いなどをさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様との談話をとおり、入居者様の願いや想いをご家族様が来訪される際にお伝えし、よりよい生活が出来るようケアプランに取り入れている。	入居者サービス確認表、実施記録を職員全員が記入しその都度確認している。日々のケアチェックもすべてを参照し、3か月毎にプラン見直し会議を行っている。すべてが集約したものが次回の介護計画に繋がっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入し、職員間で情報を共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、事業所の多機能性はないが、3ユニットあるため、他のユニットとの交流を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回避難訓練を行い、地域の消防団に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はご家族様に決めていただいている。往診のかたも居られるが、緊急の場合を除いては、毎月のお便りで往診結果をお伝えしている。	ホームの協力医はいるが、以前からのかかりつけ医の往診や職員が付き添い受診をしている。家族と共に受診した場合も情報交換をし結果を把握共有している。複数の医療機関と関係を密に行い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在他のユニットに1名看護師が、入居者様に変化があった場合は主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院と連絡を取り合ってお本人の体調を第一に早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院後、入居者様の状況を見て、ご家族様と話し合いを行い、入居者様とご家族様に納得いただけるようお話をさせていただいている。	入居者のそれぞれの主治医と職員が連携しながら支援をしている。訪問看護ステーションとも連携し、状態の悪化や入退院後の支援も行っている。緊急時は職員の連絡網も作成しており、指示や連携が取れるような体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急の講習会に参加し、急変や事故発生時にすぐに対応できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	避難訓練、日頃の介助を通して緊急な時にはどのように動けばいいかなど職員同士で話している。	緊急時の対応や防災に関するマニュアルがある。消火器を使った訓練や火災通報装置の使い方も職員が実際体験し災害に備えている。地域の消防団とも共同で避難訓練を定期的に行っている。	災害時に備えた非常食や水がなく今後は目標を決め備えることが望まれる。また地震や水害の訓練が行われていないため、風災害に備える訓練ができるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格、生き方を尊重し、声かけや対応に努めている。	入居時には家族からの聞き取りを行う。申し送りノートやアセスメント等活用し、日常生活から本人らしさを把握し支援につなげている。無理な支援はせず本人のペースを尊重して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、入居者様の意見を尊重している。言葉で表現できない方はふとした表情を見逃さないよう努め、遠慮がちの方は雑談を通し、本音を聞くよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各々のペースに応じた生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様自身におしゃれは任せている。イベント時にはメイクをおこない、美容院などはご家族様の協力いただき、なじみの美容院を利用している方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューに関しては入居者様の意見を取り入れながら献立を立てたり、おやつと一緒に作ったり、出来る限り楽しんでいただけるよう努めている。	調理専門職員を配置している。各ユニット毎に献立があり調理している。入居者の誕生日に合わせケーキを取り囲みお祝いをしている。日常的に食べたいものを聞き出し、おでんやラーメンなど提供して喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記入し、ひと目でわかるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じた口腔ケアを行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの排泄パターンを把握するように努めトイレでの排泄していただけるよう努めている。	排泄チェック表を活用し、入居者一人ひとりに合わせた排せつ支援を行っている。日中は紙パンツから布パンツへ変更したり、トイレに行く回数を個別に支援し自立した排泄支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い、水分補給や運動、繊維のある食物の摂取など便秘にならないよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望にそって入浴していただけるよう出来る範囲で支援している。しかし、時間帯によっては希望通りにいけないこともある。	個別の入浴は週2～3回予定しているが、いつでも入浴できる体制を整えている。入居者の気持ちに沿った介助をしており拒否があれば無理をせず日程を変更したり工夫している。同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安眠できるよう日中に体を動かし、薬に頼らないよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の説明をファイルにし、薬の効能や副作用を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様が安眠できるよう日中に体を動かし、薬に頼らないよう努めている。それぞれの場で自分を活かせるよう努めている。出来るだけ全員が何らかの役割を持つことが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様に協力を仰ぎながら外出支援に努めているが、不足していると感じている。	季節の花を定期的に見に行くよう外出の計画をしている。家族と共に外出をしたり、日常的に近隣の散歩を一对一でできるようにしている。買い物や不穩の時はドライブをしたり、個別に気分転換が図れるように工夫した支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人が管理している方は所持しているが、出来ない方は預かり金としてホームが管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や贈り物が届いたときには電話をかけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には不快さを感じないよう温度計を設置し、季節の花や装飾をし、季節感を感じるような空間作りに努めている。	各ユニットとも部屋の真ん中にテーブルを置き、片隅に一人ひとりがくつろげるソファや椅子を配置している。季節の装飾が掲示され、床暖房があり温度や湿度も調整している。窓が大きく外の景色もゆっくりと楽しめ自然あふれる環境が整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりひとりのプライバシーには配慮し、また、入居者様同士が自由に過ごせるようソファや和室を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使用していた馴染みのものなどを持ってきていただき、本人の思うように居室を使用している。	各居室の湿度や温度にも気を配っている。備え付けのクローゼットや押入れが充実しており荷物の収納ができる。家族やホームでの写真を掲示したり、それぞれ思い入れのある居室づくりができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には名前や案内を掲示し、自立して生活できるような工夫をしている。		